令和6年度 第2回しが子ども読書活動推進協議会 議事概要

日時：令和7年3月17日（月）13：30～15：30

会場：滋賀県大津合同庁舎 7-A会議室

出席者：小野田委員（会長）、上田委員、鹿取委員、草間委員、橘委員、二井委員、野口委員（代理：野口副主幹）、堀出委員、臼井委員（代理：松島主査）、畑委員（代理：下村指導主事）、左谷委員（代理：小林指導主事）、濱委員、村田委員、「こども としょかん」サポートセンター 寺本所長

事務局：生涯学習課 小山総括補佐、上井主幹、浦谷主査、玉利社会教育主事、堀川主任主事、
（※傍聴：なし、取材：なし）

1 開会

生涯学習課長挨拶

- ・第5次滋賀県子ども読書活動推進計画初年度の取組結果について説明する。
- ・滋賀まるごと「こども としょかん」は、滋賀のみんなで子どもの読書に関わろうという取組であることから、読書に関わる委員より大所高所からの忌憚のない意見をいただきたい。

事務局より

- ・設置要綱の確認

小野田会長挨拶

- ・今年度、「こども としょかん」サポートセンターが訪問された学校の先生方から、「こども としょかん」サポートセンター職員の方のことをよく覚えておられて、学校関係者からの知名度が上がりつつあると感じる。一方、一般の人たちの間では、「こども としょかん」を知っている人がほとんどいない。今後、知名度向上にも取り組んでほしい。
- ・また、このメンバーで意見交換ができることが楽しみである。
- ・委員の意見をたくさんお聞きしたいので、事務局の説明はできるだけ簡潔に願います。

2 議題

○会長より

- ・本日の議題を説明

(1) 「第5次滋賀県子ども読書活動推進計画」の進捗状況について 資料1参照

(2) 令和7年度子ども読書活動推進事業の取組について 資料7参照

※(1)(2)併せて説明

○事務局より説明

【学校図書館サポーター養成講座】資料4参照

- ・講座内容を説明、受講生アンケート結果と成果を報告。
- ・令和7年度は、主会場を県中部へ変更し受講生の地域的偏りがないように配慮する。市町立図書館を会場として検討する。また、県内、国内の先進的取組紹介を検討する。
- ・各市町の学校司書の採用要件として、電話にて聞き取り調査を行ったところ、司書資格必須と回答があったのは10市町、資格が必須ではないと回答があったのは6市町、外部委託などが3市町であった。
- ・修了者情報について、希望する市町に情報提供をしている。5つの市町から情報提供の申込があった。

【子ども読書啓発チラシの作成・配付】参考資料2参照

- ・乳幼児・保護者向け子ども読書啓発冊子「えほんいっぱい たのしさいっぱい」は、今年度は令和5年度中に印刷したものを配付した。
- ・令和7年度はチラシを15,000部作成。啓発冊子は1,500部作成し、ご希望の方にお配りする予定である。
- ・チラシ（参考資料2）裏面に、二次元コードがあり、啓発冊子のデータにアクセスできる。そこからアンケートに回答した方の中で、希望者には啓発冊子をプレゼントする。

【すまいる・あくしょんフェスタ 2024 への出展】

- ・昨年 10 月 12 日に開催。
- ・米原市立図書館や、当協議会委員であり「おはなしボランティアと芸術の会」代表の鹿取委員の協力でブース出展をした。

【講談社「本とあそぼう 全国訪問 おはなし隊」(3月24日オープン)

- ・キャラバンカーが令和7年4月中旬から5月下旬にかけて、滋賀県内を訪問予定。

【指標の推移】資料3参照

- ・第1回で報告した資料から、「1か月に1冊以上本を読んだ子どもの割合」を追記した。

○幼小中教育課より説明

【学校図書館連携推進事業】資料5参照

- ・県内公立小中学校および義務教育学校の学校図書館担当教諭(司書教諭を含む)、学校司書、公立図書館司書が一堂に会した。
- ・第1回のグループ協議では、違う立場の者が、悩みや課題に対してのアプローチ方法を共有された。参加者からは、「悩み等を共有できてよかった」「役割について理解が深まった」「組織で動いていく必要があることを実感できた」「学校図書館を活性化していく気持ちが高まった」との感想があった。
- ・第2回は、読書活動推進協力校の近江八幡市立桐原小学校、近江八幡市立八幡東中学校、近江八幡市教育研究所に、事例発表をしていただいた。
- ・令和7年度は、オンライン(同時視聴)形式で開催。参加しやすい協議会としたい。

○「こども としょかん」サポートセンターより説明 資料6参照

【学校訪問】

- ・今年度は懇談形式。19市町1校ずつ訪問した。
- ・令和7年度からは、3年間で全ての小中学校を訪問予定。

【学校図書館に係る研修】

- ・新任校長研修に、学校図書館に関するオンデマンド(録画動画の視聴)研修を新設する。

【「こども としょかん」ポータルサイト】

- ・昨年12月に開設。
- ・主な発信内容を説明。
- ・学校図書館で非常に重要となる「学習センター機能」を底上げするための、学校図書館活用年間計画例や、様々な取組の紹介をする予定である。
- ・地域で活動される皆さん向けのページでは、「こども としょかん」サポートセンターが行う研修やセミナー等、読書ボランティアに関する情報を掲載し、活動を支援したい。

【子どもの読書活動を支えるひとづくり】

- ・読書ボランティア研修では、非常に多くの方に参加いただいた。令和7年度も継続していきたい。
- ・昨年9月に学校図書館に従事しておられる方を対象としたセミナーを開催した。現状、学校司書の方の研修機会が少ない。また、学校司書同士の交流の場が少ない。令和7年度は、学校司書研修会や交流会を開催する予定である。

【子ども・子育て世代にとって居場所となる図書館づくり】

- ・大津少年鑑別所、子ども家庭相談センターに対して本の特別貸出やお話し会を実施。令和7年度も年間を通じて計画的な訪問支援に努める。

【乳幼児期からの読書習慣の形成】

- ・今年1月、滋賀文教短期大学生による読み聞かせ等を開催。令和7年度も継続して実施したい。

【滋賀県読書のまちづくり推進協議会】

- ・読書人口を増やすことを1つのキーワードにしながら、図書館、学校図書館、書店等の連携協働による読書のまちづくりを推進することを目的として、昨年12月に設置。
- ・令和7年度は、文部科学省委託事業の採択を目指し、申請中である。

質問・意見

- 会長
- ・非常に多岐にわたった活動をしている。補足があればお願いしたい。県立図書館に来館される方で、「こども としょかん」について触れられる方とか、何かそういった声を聞かれることはあるか。
- 村田委員
- ・具体的に「こども としょかん」について言われたことはないが、「こども としょかん」サポートセンターと協働で、学校図書館や特別支援学校、外国にルーツをもつ子どもに向けて資料を一層整備したところではある。
- 会長
- ・特別支援学校の図書館がなかなか充実していないのが現状であると思うが、この「こども としょかん」という事業がはじまって何らかの変化があったら、教えていただきたい。
- 特別支援教育課長代理
(小林指導主事)
- ・特には把握していない。
- 上田委員
- ・『「こども としょかん」ポータルサイト』を拝見したが、大変充実している。読書ボランティア向けの啓発や広報のチラシがあれば教えていただきたい。
 - ・学校図書館サポーター養成講座について、こちらも素晴らしい講座を、しかも無料で開催されたということで、読書ボランティアの間でもとても話題になっていた。オンデマンド動画配信の充実を図るとのこと、本当にありがたいと思う。養成講座受講生以外の者も視聴できるのであれば、読書ボランティアの活動の参考になると思われるため、視聴方法を教えていただきたい。
 - ・学校司書の配置を進めていくことはありがたいが、学校の教職員の協働の仕方とか、学校長との連携の仕方も講座に含まれているとのことだが、学校司書の役目は何か、どうやって連携していくか、子どもたちどうつながっていくか、子どもたちが活発な学校とそうでない学校がある。児童・生徒対応の部分を充実させていただけるような、講座にさせていただけるとよい。
 - ・読書ボランティアや学校司書、市の行政担当が学校に参集し、「こども としょかん」サポートセンター主催の「読書ボランティア研修」を、オンデマンド動画配信で視聴した。学校図書館についての説明や講演を聞き、色々な立場の方と意見交換をした。学校司書の悩み、読書ボランティアとの連携などを話すことが出来たので、大変良い機会だった。学校図書館連携推進事業では、色々な立場での交流会、今年司書教諭や学校司書の協議会があり、読書ボランティアは対象ではなかったが、そこに読書ボランティアも入ることができれば、学校図書館を関係者みんなで盛り上げることができるのではないか。
- 寺本こどサポ所長
- ・『「こども としょかん」ポータルサイト』については、あらゆる機会を捉えながら啓発等を行っているところ。昨年12月、教育長定例記者会見で記者に向けて説明し、京都新聞に掲載された。読書ボランティア研修会や学校図書館連携推進事業で説明を行っている。また、紙媒体による広報としては、小学校上学年向け情報誌子ども版「教育しが」に掲載した。引き続き、様々な媒体を活用して啓発していきたい。
- 事務局
- ・学校図書館サポーター養成講座のオンデマンド動画配信について、年度当初は受講生のみでの配信を想定していたが、他の方々からも研修機会を広げてほしいという声があがり、講座の講師とも調整した。最終的には、学校図書館関係の方からお申し込みを頂いた場合に、限定で動画を視聴できるようにした。講師との調整の中で、やはり、どこまでも制限なく配信というのは難しいため、限定での動画配信とした。
 - ・令和7年度以降についても、できる限り研修機会を広げることができるように調整したい。
- 会長
- ・読書ボランティアを交えた研修の在り方、オンデマンドもその一つとして受け止めさせてもらったが、それをもっと広げていくことが可能か。幼小中教育課の学校図書館連携推進事業は主に教職員が対象と思うが、読書ボランティアにも聞いてもらうことで、学校司書や教職員の考えを知ってもらう機会になるという意見があるか、読書ボランティアの参加も可能か。
- 事務局
- ・学校図書館サポーター養成講座のオンデマンド動画配信は、今年度は当初受講者のみでスタートし、研修対象拡大については講師と別途調整した。令和7年度は調整の段階から、研修対象の拡大も含めて検討したい。

- 幼小中教育課長代理
(下村指導主事)
- ・学校図書館連携推進事業は、司書教諭を含む学校図書館を担当している教諭を主な対象としている。学校図書館に関わる教員が参加する会議としては、司書教諭等連絡協議会を開催しているが、初めて司書教諭を発令された方のみを対象としており、参加人数は合計50名程度であった。学校図書館連携推進事業では、県内全ての公立小中学校(各校1名)を対象とし、合計350名参加いただいた。学校図書館の整備や活用は、司書教諭を含む学校図書館担当の教員がメインではあるが、学校全体が組織的に運営すること、また、学校司書や公立図書館司書、読書ボランティア等との連携は欠かせない。今年度は、顔を突き合わせて協議いただきたいということで参集にこだわった。また、特に学校司書との連携を強化したいという考えもあった。しかし、学校司書の勤務曜日が決まっていることで参加が難しいことや、旅費の支払いが煩雑になるという課題があった。令和7年度は、参加していただきやすいオンライン形式で実施する。読書ボランティア等、学校図書館の関係者も後日視聴できるよう、オンデマンド動画配信等については今後検討していきたい。
- 橘委員
- ・「読書ボランティア研修」のオンデマンド動画配信については、(上田委員から)研修を受けなければいけない当事者だけでなく、読書ボランティアや学校の図書館担当者など、学校図書館関係者が一堂に会して研修したという話をしていただいたが、それは良いことと思う。それぞれの学校司書、読書ボランティアなど、活動状況はそれぞれだが、まずは全体の話として聞く。現場へ落とし込むことが大事。チームが1つになることが、学校図書館が変わるきっかけになる。県庁に来て担当者だけが聞く、というだけでなく、学校で関係者を集めてオンデマンドで聞くという動きをつくっていただけるとありがたい。
- 会長
- ・「読書ボランティア研修」等のオンデマンド動画配信を活用する、市町主催の学校図書館関係者研修について、県の生涯学習課が実施するのは難しいかもしれないが、東近江市の研修取組を県の生涯学習課が取材し、A4版1枚でも発信していただければ。「こどもとしゃかん」サポートセンターが学校訪問するということが、市町の担当者に、こんな事例があると紹介するなどして、県内に広めてもらおうと良いなと感じながら聞かせてもらった。
- 寺本こどサポ所長
- ・今お話いただいたところについて、学校訪問、学校全体で学校図書館をどうするかという意識を持つのが大事で、それは校長先生が大事。それを共有するスペースとして、資料6のポータルの中にそういうページを作っている。「学校図書館に関わる皆さんへ」の中に、情報共有の機能を持たせており、自校で取り組んでいる内容を他校に共有することを想定している。他校の取組、自校の学校図書館の現状などを知ってもらえるようにしたい。閲覧は学校関係者のみとしている。
- 二井委員
- ・前回の協議の中で、啓発冊子「えほんいっぱい たのしさいっぱい」について、ぜひ紙での発行に戻してほしいという意見を出したが、冊数減だが残していただいたことに感謝。行政の立場として、こういうことを変えるのは、たいへん難しいことと承知しているが、こういった協議会の意見を尊重していただいて嬉しい。
 - ・県公共図書館協議会の会長・副会長や理事が知事との懇談を行った。滋賀まるごと「こどもとしゃかん」は、全ての子どもたちが対象であるが、県立養護学校の先生から学校図書館が無くなっているという声を聞く。また、びわこ学園で「絵の本ひろば」をした時、重度の方でも司書や職員・ボランティアの方々と一緒に本を介して有意義な時間をつくることのできた。県立図書館に「絵の本ひろば」セットを用意し県内の養護学校等で貸出していただけると大変ありがたいがどうか、という話をした。知事は、「絵の本ひろば」の県内普及を含め、県と市町が協力する基盤があることが、滋賀の公共図書館の強み。県立図書館と市町立図書館のより一層の連携が重要だとおっしゃった。
 - ・学校図書館サポーター養成講座修了生を、市町に紹介したという話をされたが、どういった方法でされているのか。
 - ・「読書のまちづくり協議会」会長をさせていただいている。補足であるが、文部科学省から受託できるかわからないが、書店との連携がキーになっており、経済産業省でも書店と図書館の連携を重視。滋賀県内から書店の減少を食い止めること、読書人口を増やし、活字文化を守ることの大事さをひしひしと感じている。
 - ・新規の事業について、県の事業は1回きりのものが多いが、その1回を大事にしてほしい。1回できちんと市町を結び付けてほしい。滋賀まるごと読書フェアの開催、ボランティアとの連携も必ず必要と思うし、それをきっかけに県内の各自治体で連携が進むような工夫

- を今後考えていければと思う。出席の委員の方々のお力をいただければと思う。
- 村田館長
- ・「絵の本ひろば」について、大人が一方的に本を与えるのではなく、子どもが自発的に本を選ぶことが大事という考え。「こども としょかん」サポートセンターの予算で絵本 300 冊弱を整備し、特別支援学校など、運用先についてはまだ考えているところ。市町立図書館がどのようにすると使いやすいのか、検討中である。
- 事務局
- ・市町への紹介について、学校図書館サポーター養成講座受講者に希望をうかがい、了承を得られた方について名簿を整理している。市町学校司書の採用主管課に対し周知し、希望に対応した情報を提供している。雇用にぜひともつながってほしいと考えているところ。
- 会長
- ・(本日欠席の中島委員の感想等を紹介)
学校図書館サポーター養成講座はありがたい。一般の方が学校司書として配置される場合、こういった養成講座で学校司書の仕事の意義を学び、教職員との連携の意義を知っていただくことが大事。今後も市町へ紹介をしていただくようお願いする。
- 会長
- ・二井委員から、1 回きりの事業が多いという意見があり、読書というのは生涯読書というか、生涯を通じてずっと続けていく。そこに値打ちがあり、人間としての深みが出てくる。事業として実施することと、継続的に実施していくこととのバランスについてアイデアがあればご意見いただきたい。
 - ・もう 1 点、先程お話しいただいた「読書のまちづくり協議会」について、当協議会とは別の協議会ではあるが、同じ方向を向いていくことが大事である。もっと、こうしたいという提言があればご意見いただきたい。
- 二井委員
- ・草津市でも申請したいと考えていたが、必ず書店が入ることが条件となっており、「読書のまちづくり協議会」に書店に入ってもらったことが難しかった。1 回きりのイベントが駄目というのではなく、その 1 回をいかに有効活用して、滋賀県民のために、読書人口を増やすとか、本の文化を守っていくかが大切。
 - ・県の「読書のまちづくり推進協議会」で、行政はなまぬるいという意見もあった。お役所仕事というイメージ。書店は、厳しい状況の中に立たされていて、その中で何とかして盛り上げたいという考えで協議会に出席されている。この事業を通じて県が書店と連携し、書店の売り上げなども考慮したイベントにしていく視点が必要。
- 会長
- ・書店と図書館とが両立するという点が、相反するということもあるかもしれない。ミシガンを活用するという話があったが、船内でイベントをするということで、どんな本を扱うのか、選ぶのは難しい。たまたま、広報誌『シャイン!!』が新聞に入っていた。著名人が学生の時に読んでいた本を紹介したら売れるかもしれない。読書人口を増やす、書店に活力を持ってもらうために、これまで無かった取組をしていく必要がある。1 回のイベントの一方で、もっと身近で、ずっと続けられる取組もしていく必要がある。
- 寺本こどサポ所長
- ・書店と図書館の思いが全然違う。「読書のまちづくり推進協議会」の中で、関係者がつながることをまず目指したい。アイデアとして、滋賀県にまつわる無名の作家を支援する取組、学校なり図書館なり書店なりの人が本を紹介する取組、SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス) も活用して情報を発信したらどうかという意見があった。文部科学省の受託が受けられなかったとしても、話し合いの場をこれから持っていく必要がある。連携する場をつくることは大事。具体はこれから決めていくところ。
- 会長
- ・先程からオンデマンド動画配信という話もあるので、オンデマンド動画配信で滋賀県出身の色んな人にインタビューして SNS で配信するなど。そういうこともありかなと思う。身近なところ、日々の取組からアイデアをお願いします。
- 鹿取委員
- ・5～6 年前から、毎年小学校で「絵の本ひろば」をしている。最初は大変だった。児童は、1 年前の本もよく覚えている。これ去年もあったとか。市町立図書館にお願いして選書しているが、300 冊以上は並べないと「絵の本ひろば」の意味がない。本が少ないと児童が本を選ぶことができない。字を読むことが得意ではない児童のニーズに合わせて写真本等も必要となる。異動された校長先生が、前任校で「絵の本ひろば」がよかったからと、広めてくださっている。やはり、先生方に興味を持ってもらうこと、学校に協力してもらうことが大切。
 - ・加藤啓子先生 (絵本あれこれ研究家) に選書してもらって、何千冊の図書リストをいただいている。ただ、図書館にも本がなかなかない。特に大型本など。
- 会長
- ・図書リストを「『こども としょかん』ポータルサイト」に掲載することは可能か。

- 寺本ことサ
ポ所長
- ・掲載は可能。
- 二井委員
- ・加藤啓子さんは、現地現場を大事にされている。実際に児童と接した中で選書をされる。小学校に行くバージョンの「絵の本ひろば」と、特別支援学校のものとは微妙に違う。県立図書館に、びわこ学園の図書リストははすでに渡しており、それを元に選書している。草津市は草津市内在住および市内に在勤・在学されている方のみにはしか貸出できないので、ぜひ県立図書館で所蔵してもらえれば。面展台も県立図書館では10台ほど所有しているので。
- 草間委員
- ・読書ボランティア活動に参加する人が減ってきている。若い方が入ってこない。
 - ・啓発冊子「えほんいっぱい たのしさいっぱい」も、紙の媒体で置いてあることが大事。継続はしていただけるとのことだが、冊子は希望者のみとのこと。大人にとっても参考になるような、とても大事な資料だと思う。
 - ・幼稚園や保育園も、先生方も本を読む時間がなく忙しい。学級に置いてある本が、充実していない。公立図書館に保護者と一緒に来られる子どもは恵まれている。やはり、園や学校など身近にある本が重要。学級文庫が充実すれば、休み時間に図書館まで行かなくても、そこに本があって、ちょっとした時間に本に触れることができる。
 - ・学校の先生方に負担をなるべくかけないようにと思うが、読書ボランティアにばかり頼らないでほしいというものもある。その中で、学校司書の存在は大きい。県が、「滋賀まるごと『こども としょかん』」と発破かけているが、市町には財源がないところもあるので、等しく環境が整備できればと思う。
- 会長
- ・中島委員からも、高校生の不読率が高いが、幼小中段階での子ども読書活動がキーとなっているのではないかという意見をいただいている。
 - ・学校に読書活動と呼び掛けることは、当協議会で提言をしても、そうですかで終わってしまう。学校図書館長である学校長に向けて発信していただくと非常にありがたいが、幼小中教育課や高校教育課から、そういった発信は可能か。また、研修を受けた担当者だけでなく、オンデマンド動画配信で学ぶことができるのか。
- 幼小中教育
課長代理
(下村指導
主事)
- ・「こども としょかん」の取組とともに、子どもの「学ぶ力」を伸ばす上でも学校図書館の活用は重要だと考えている。「第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン(概要版)」リーフレットを各市町・学校に配付しているが、そのリーフレットに、「学ぶ力」向上の取組の一つとして、「学校図書館の活用」という文言も入れている。何より、教師が学校図書館の効果であったり、素晴らしさであったりを実感することが大事だと考えている。
- 高校教育課
長代理(松
島主査)
- ・高校の場合には、学校長が集まる場で、折に触れて読書活動推進を伝えている。学校それぞれに、どういう生徒やどういう力を育てたいかという違いもあるので、一律に県から言うということはしていない。しかし、様々な学びの基礎にあるのは読解力であるという点や、読書により生徒一人ひとりの世界が広がるという所は引き続き大切にしていきたい。
- 鹿取委員
- ・『『こども としょかん』ポータルサイト』で読書ボランティア向けの情報共有ページができるとのこと、ありがたい。読書ボランティアが直接書き込みできるのか。情報提供をして掲載してもらうのか。読書ボランティアがどのように発信できるのか知りたい。
- 寺本ことサ
ポ所長
- ・『『こども としょかん』ポータルサイト』の情報についてはマッチングを想定しているので、読書ボランティアの方から直接書き込めるようにはなっていない。情報発信されたい場合は、「こども としょかん」サポートセンターに相談いただきたい。何らかの形で情報発信ができるか検討したい。

3 閉会

小野田会長挨拶

- ・いろんな立場から様々なご意見をいただいた。庁内各課の皆様には、丁寧な回答に感謝する。令和7年度も同じメンバーで論議を深めていくことにもなる。今日、話題になったことを各々持って帰っていただき、次回何か提案していただけるとよい。令和7年度も引き続き、より深い論議ができるとありがたい。

小山総括補佐閉会挨拶

- ・本日のお礼